Honda発電機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店またはサービス店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

・運転をするときには、必ず携帯してください。
・発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげ販売店、サービス店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた発電機を安全かつ能率的に使用する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ……4
安全ラベル ……8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう……9
エンジン　スイッチ ……10
始動グリップ ……10
燃料コック　レバー ……11
チョーク　レバー ……11
出力表示灯(パイロット　ランプ)……12
オイル　アラート機構 ……12
交流リセット　スイッチ ……13
交流コンセント ……14
直流リセット　スイッチ／直流出力端子 ……15
メンテナンス　カバー ……16

運転をする前に点検しましょう……17
燃料の点検 ……17
エンジン　オイルの点検 ……19
エア　クリーナ(空気清浄器)の点検 ……20
発電機周辺の点検 ……21

発電機のかけかた……22

電気の取出しかた……25
交流 ……25
直流(12 Vバッテリ充電専用)……27

発電機のとめかた……30

定期点検を受けましょう……32

やさしい点検・整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
エンジン　オイルの交換 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
エア　クリーナ（空気清浄器）の清掃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
点火プラグの清掃・調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

常時使用しない場合には・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

運搬する場合には・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40

長期間使用しないときの手入れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

修理を依頼する前の簡単な点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

主要諸元・・・46

交流電源／直流電源の使用できる範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

配線図・・49

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
- この発電機は車載用として製造はしていませんので車載したまま使用しないでください。
- 発電機を間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも発電機の操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や、本機、使用器具の損傷が起こる原因になります。
- エンジンを始動する前に必ず「運転をする前に点検しましょう」(17〜21頁)を行ってください。事故や本機、使用器具の故障の防止になります。
- 過労や飲酒、薬物を服用して発電機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 排気ガス中には、有害な成分が含まれています。排気は風通しのよい場所に向けてください。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や、動植物などにも十分ご注意ください。
- 室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などや換気の悪い場所では使用しないでください。
  換気の悪い場所は、酸素不足と有害な一酸化炭素がたまってガス中毒の危険があります。
- 燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し換気の良い場所で行ってください。

警告

- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり、炎や、火花などの火気を近づけないでください。
- 燃料は、こぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、乾かしてからエンジンを始動してください。
  ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- 発電機は平坦で堅い場所に置いて使用してください。
  小石、土、砂利などで凸凹していたり、軟かい所や傾斜地では使用しないでください。発電機が転倒し、本機や使用器具の故障を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 発電機の改造は絶対にしないでください。
  本機や使用器具が故障するだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- カバー類を外したまま使用しないでください。手や足をはさんだり思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。
  雨や水で濡れた発電機や使用器具を使用したり、また濡れた手で操作すると感電することがあり危険です。
- 電力会社からの電気配線には絶対接続しないでください。
  本機や使用器具を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。
- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

警告

●使用中は

- 使用中は建物およびその他の設備から1 m以上本機を離してください。
  発電機から出る排気ガスは熱くなります。まわりに危険物(油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすいもの(わらくず、紙くずなど)は近付けないでください。また発電機の周囲を囲ったり、箱をかぶせたりしないでください。本機や使用器具に損傷を起こすだけでなく思わぬ事故を起こす可能性があります。
- 使用中や停止直後の発電機はエンジン本体やマフラなどが非常に熱くなっています。エンジン本体やマフラなどに触れたり、物をのせないでください。やけどなどの傷害や火災事故を引き起こすおそれがあります。
- 使用中は発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
  燃料漏れや振動による自然移動、転倒による本機や使用器具の損傷、故障の原因など思わぬ事故の可能性があります。
- 使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス店にお申しつけください。
- 発電機から離れるときは、必ずエンジンを止め、本機から使用器具のコンセントを外してください。
  いたずらなどで使用器具が動きだし、思わぬ事故を起こす可能性があります。

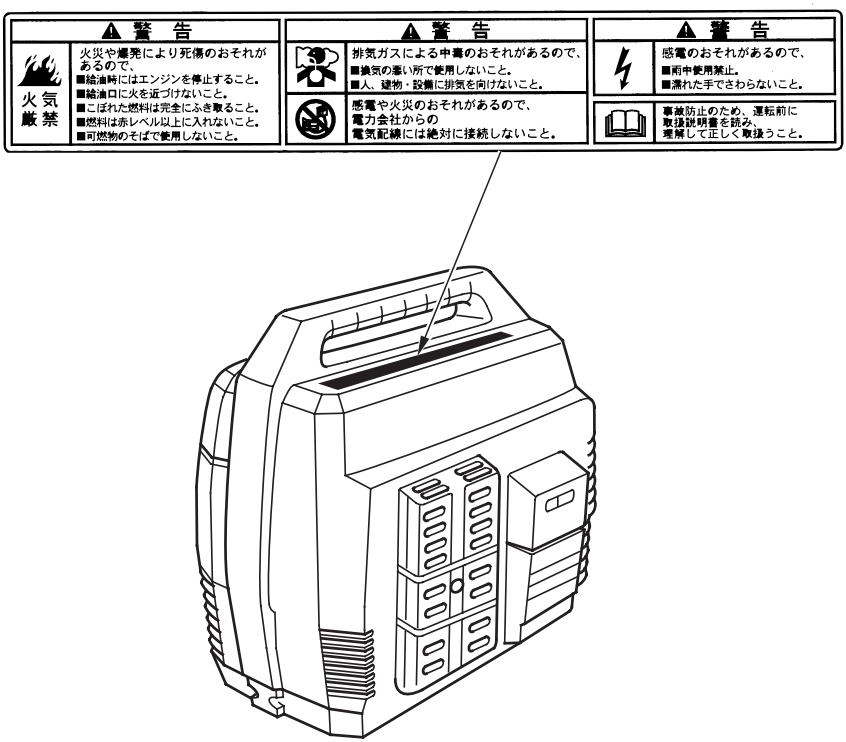
警告

●使い終ったら

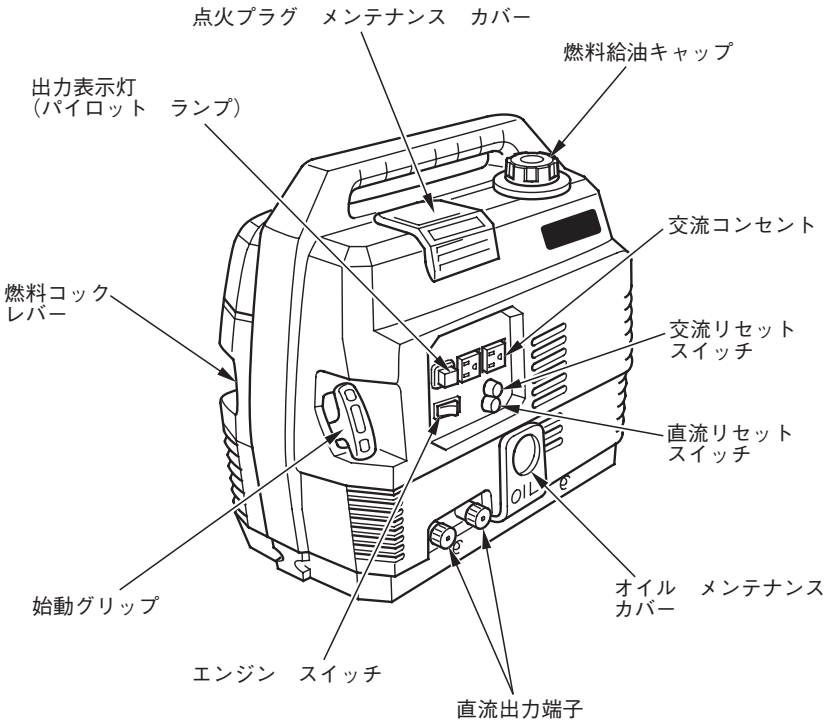
- 発電機を水洗いしないでください。
  電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。
- 長期保管前には、燃料タンク、キャブレータ(気化器)内の燃料を抜き取り、発電機を火気や、湿気、凍結のおそれのない所に保管してください。抜き取った燃料は火災や爆発の危険性がありますので適切な処理をしてください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

発電機を安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルは、はっきりと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店またはサービス店にご注文ください。

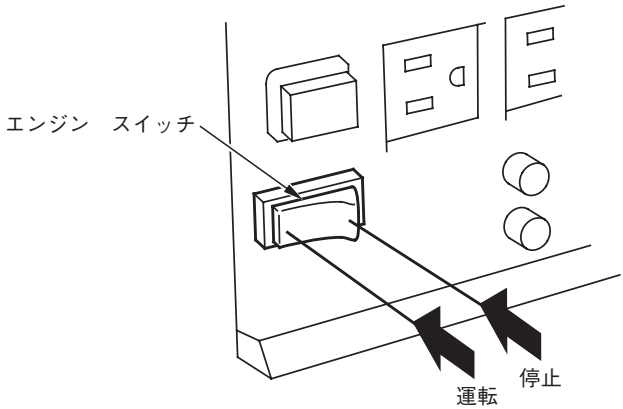


各部の名称と取扱いをおぼえましょう



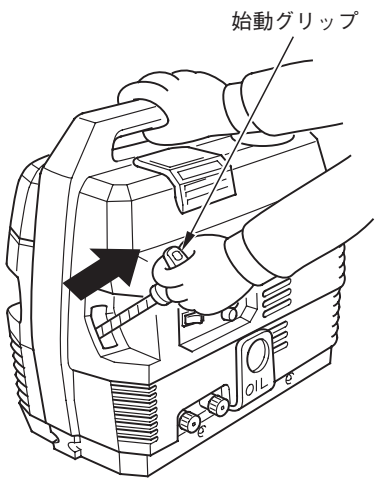
エンジン　スイッチ

発電機を運転、停止するときに操作します。



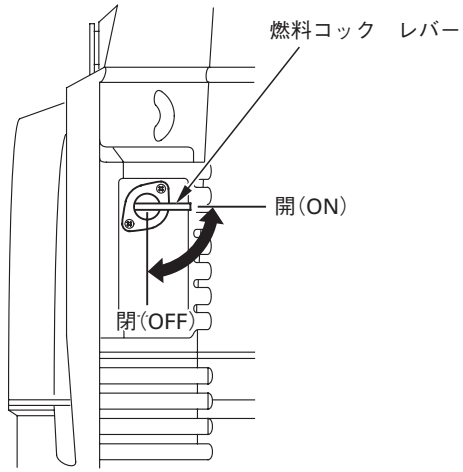
始動グリップ

発電機を始動するときに操作します。



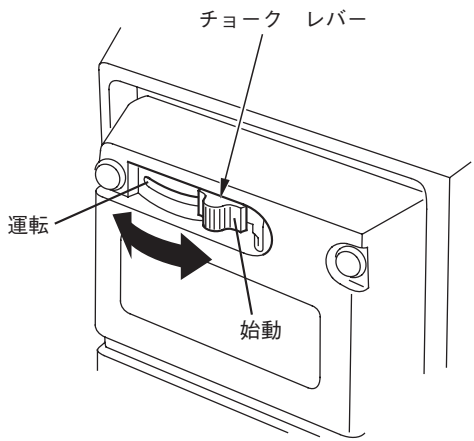
燃料コック　レバー

燃料タンクから気化器までの通路を開閉するときに操作します。操作は確実に“開(ON)”“閉(OFF)”に合わせてください。



チョーク　レバー

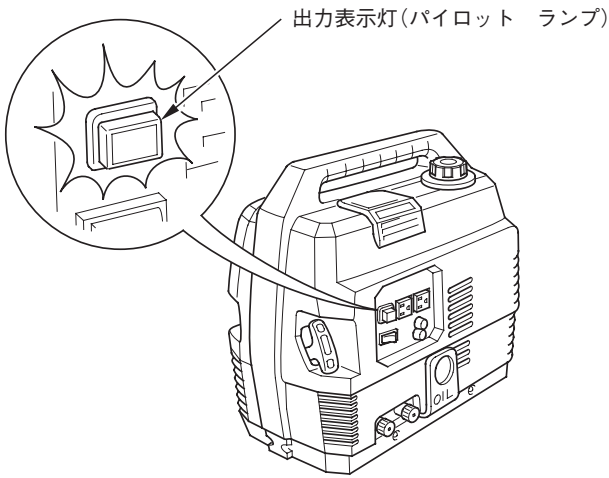
始動時にエンジンが冷えている場合にチョーク　レバーを“始動”の方向に操作します。



出力表示灯(パイロット　ランプ)

交流の発電状態を確認できます。

エンジンが始動すると出力表示灯(パイロット　ランプ)が点灯します。



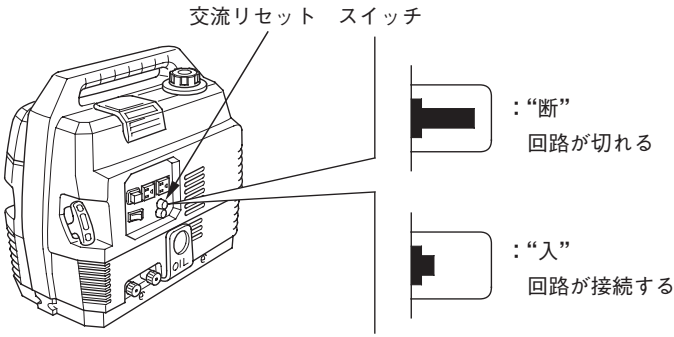
オイル　アラート機構

本機のエンジンにはオイル　アラート機構(焼付防止エンジン自動停止装置)が内蔵されています。運転中にエンジン　オイルが不足すると、エンジンは自動的に停止します。エンジンが停止した場合は、エンジン　オイル量を点検し、補給してください。(点検、補給は19頁参照)

オイルが規定量入っていても、本機が傾斜しているとオイル　アラート機構が働き、エンジンが停止することがあります。

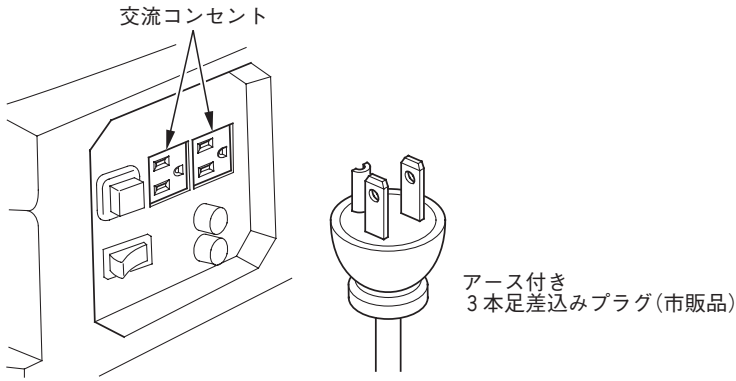
交流リセット　スイッチ

交流回路を保護します。
発電中に使用器具に異常があった場合や過負荷のときにリセット　スイッチが切れ、電気が取出せなくなります。
使用する電気器具は必ず本機の定格出力内で使用してください。主要諸元(46 頁)、交流電源の使用できる範囲(47 頁)を参照してください。
リセット　スイッチが切れた場合はすぐに**“入”**にしないで 2 分間以上待ってください。使用器具に異常がないか、また電気の取出し過ぎではないか確認してからリセット　スイッチを**“入”**にします。



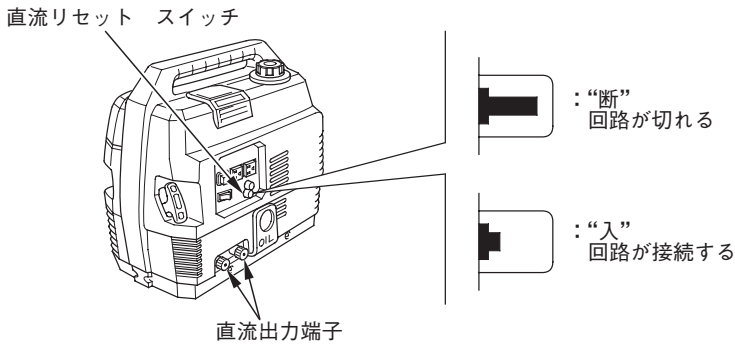
交流コンセント

交流電気を取出すところです。
コンセントへプラグを差込む場合は、接触不良、抜けのないように確実に行ってください。
差込みプラグは図のようなアース付き３本足差込みプラグ(市販品)を使用してください。



直流リセット　スイッチ／直流出力端子

直流リセット　スイッチは直流回路を保護します。
バッテリ充電中に異常があった場合や電気の取出し過ぎのときにリセット　スイッチが切れ電気が取出せなくなります。
リセット　スイッチが切れた場合はすぐに**“入”**にしないで2分間以上待ってください。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからリセット　スイッチを**“入”**にします。

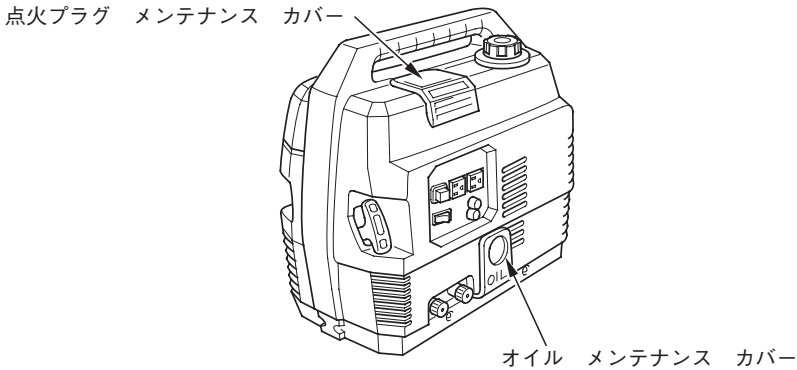


直流出力端子は直流出力を取出すところで、12 Vバッテリの充電専用です。交流出力を使用していても直流出力を取出すことができます。
充電コード(別売部品)のプラス、マイナスは極性に注意し、接触不良のないように確実に接続してください。充電コードの接続のしかたは29頁を参照してください。

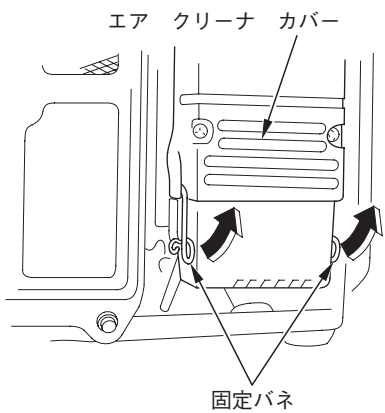
メンテナンス　カバー

- オイル　メンテナンス　カバー
  エンジン　オイルの量を点検、補給するときに開きます。

- 点火プラグ　メンテナンス　カバー
  点火プラグを清掃するときに開きます。



- エア　クリーナ　カバー
  エア　クリーナの汚れの点検、清掃のときに取外します。
  エア　クリーナ　カバーは固定バネを起こして取外します。

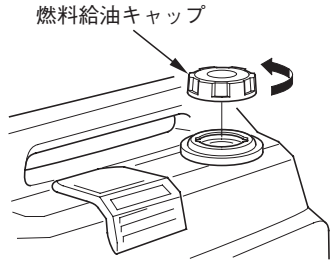


⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップを外して行ってください。

燃料の点検

点検

燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)まで燃料があるか点検します。少ない場合は補給します。

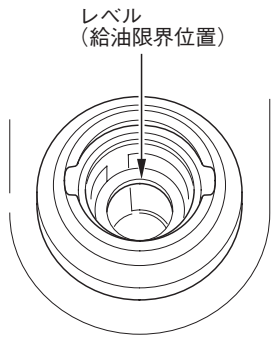


補給

タンク容量：2.9ℓ

使用燃料：自動車用無鉛ガソリン

- 燃料給油キャップを外し、注入口のレベル(給油限界位置)を超えないように燃料を補給します。レベルより上まで補給すると、燃料が漏れることがあります。
- 補給後、キャップを確実に締付けてください。



⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

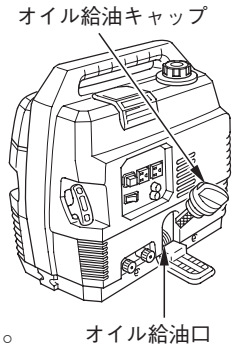
燃料を補給するときは

・エンジンを停止してください。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で補給してください。
・燃料はこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は口元まで入れず所定のレベルを超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内の燃料が燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。

エンジン　オイルの点検

点検

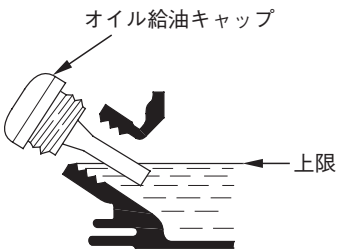
オイル　メンテナンス　カバーを開きます。
エンジン　オイル給油キャップを外し、オイル給油口の口元までオイルがあるか点検してください。
汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換方法は33頁参照)

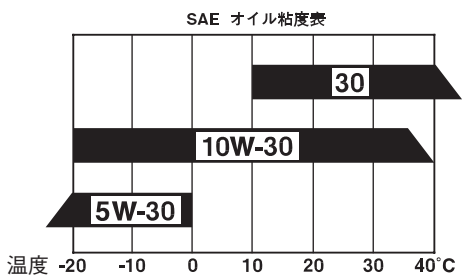


補給

少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
推奨オイル:
(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)

Honda純正　ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。





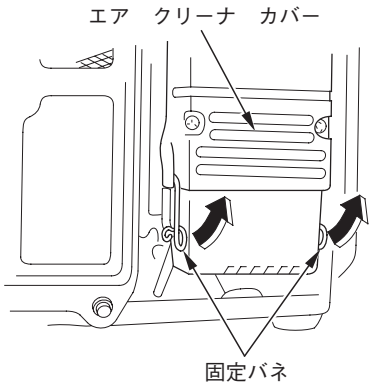
取扱いのポイント

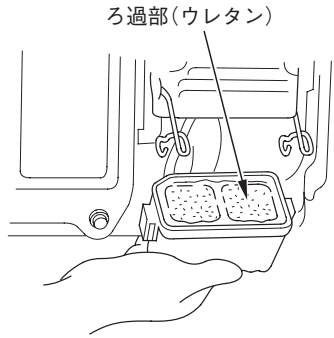
- 低温時(気温10℃以下)は、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時は、API分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。
- 給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア　クリーナ(空気清浄器)の点検

点検

1. 固定バネを起こしてエア　クリーナ　カバーを取外します。
2. ろ過部(ウレタン)の汚れを点検します。
   汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン)の清掃をします。(清掃方法は35頁参照)





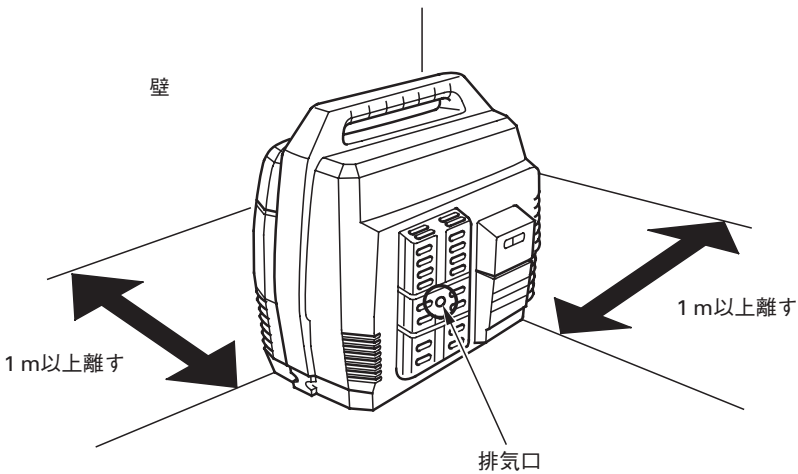
3. ろ過部(ウレタン)とエア　クリーナ　カバーを確実に取付け、固定バネをセットします。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またカバーやろ過部(ウレタン)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン)などは確実に取付けてください。

発電機周辺の点検

- 燃えやすいものや危険物は置いていませんか。
- 建物および他の設置物から１m以上離れていますか。
- 風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- 排気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。
- 周囲に火の気はないですか。
- 発電機をダンボール等で囲っていませんか。
- 使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり軟らかい所では使用しないでください。
  やむをえず使用する場合は、発電機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- 傾斜地では使用しないでください。



発電機のかけかた

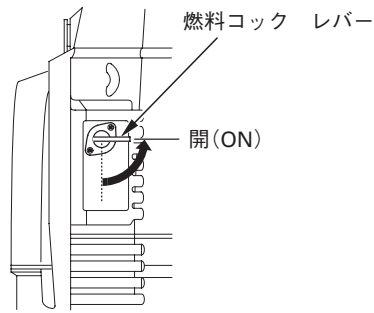
⚠警告

屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こすおそれがあります。

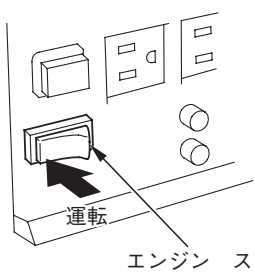
⚠注意

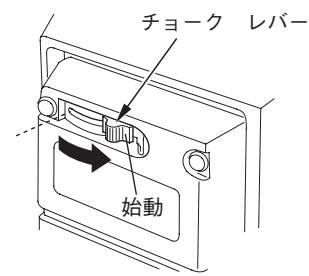
発電機のコンセントから使用器具のプラグが抜いてあることを確認してください。使用器具が接続されたまま発電機を始動すると、使用器具が不意に作動を始め思わぬけがや事故を起こす可能性があります。また始動困難や発電性能に異常をきたすことがあります。

1. 燃料コック　レバーを**“開(ON)”**にします。

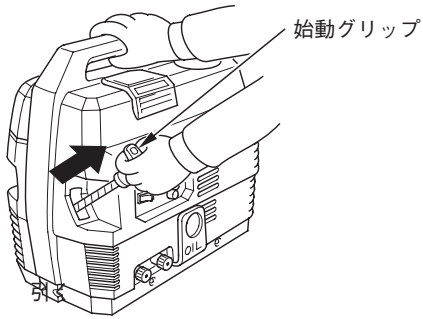


2. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置に合せます。
3. エンジン冷間時は、チョーク　レバーを**“始動”**の位置に合せます。
   ・エンジンが暖まっているときは操作不要です。





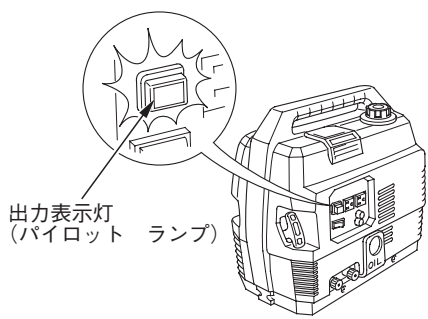
4. 始動グリップを引いて重くなる所をさがし、始動グリップを一度戻してグリップを勢いよく引くとエンジンがかかります。
始動グリップは図の矢印方向に引いてください。



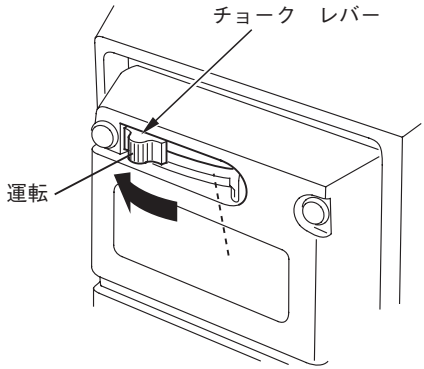
取扱いのポイント

- 始動グリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- 始動グリップを引いたまま手を離さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

5. エンジンが始動すると出力表示灯(パイロット　ランプ)が点灯します。



6. 始動後エンジンの回転が安定したらチョーク　レバーを徐々に戻して“運転”の位置にし暖機運転を行います。



電気の取出しかた

使用器具を接続する前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みください。

⚠警告

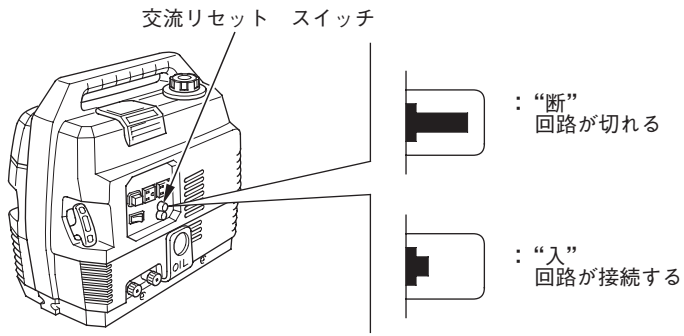
電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。
火災あるいは人身事故、または本機や使用器具が故障する原因となります。

- 発電機の使用に際しては法律や規則がありますので、労働安全衛生規則、消防法、電気事業法などに従ってください。

交流

交流電源の使用できる範囲は、47 頁を参照してください。

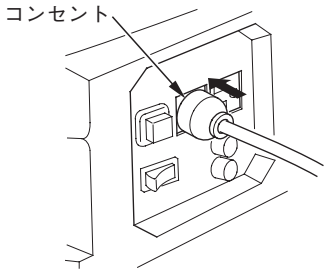
1. 交流リセット　スイッチが**“入”**であることを確認します。

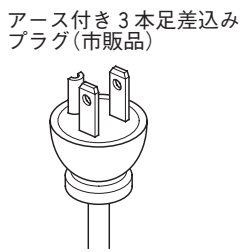


2.「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。

- エンジン始動後、出力表示灯(パイロット　ランプ)が点灯していることを確認してください。

3. 使用器具のスイッチが切れていることを確認し、コンセントへ使用器具のプラグを確実に差込みます。
差込みプラグは図のようなアース付き3本足差込みプラグ(市販品)を使用してください。





⚠注意

接続する使用器具のスイッチが切れていることを確認してください。使用器具のスイッチが入っていると、使用器具が急に作動し、思わぬけがや事故を起こす可能性があります。

4. 使用器具のスイッチを入れます。

直流（12Vバッテリ充電専用）

12 Vバッテリの充電以外には使用しないでください。

⚠警告

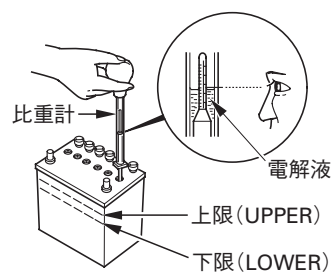
- バッテリを取扱うときは風通しの良い所で、ショートによる火花に注意してください。また火気を近づけないでください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。
- 充電するときは、バッテリに接続されているコードはすべて取外してから行ってください。外す時はマイナス㊀側から外し、接続はプラス⊕側から行ってください。誤るとショートする場合があります。

取扱いのポイント

バッテリを長時間充電すると、バッテリ液の温度が上がり、バッテリの機能が低下する場合があります。

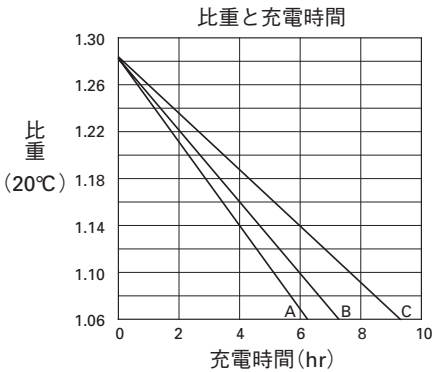
●バッテリの種類によって取扱いが異なります。ここでは解放型バッテリ（液補充型）を中心に説明します。

1. バッテリに接続されているコードやチューブを外し、バッテリを取外します。
2. バッテリの比重を測定します。
   - ●バッテリの栓を外して、バッテリ液量を点検します。液面が下限（LOWER）に近い場合は、各セルに蒸留水を上限（UPPER）まで補給します。



●必ず蒸留水を補給してください。水道水はバッテリの寿命を縮める原因となります。
●比重計でバッテリ液の比重を測定します。
●比重は1時間おき位に測定してください。またリセット　スイッチが切れていないか確認してください。(目安として満充電の比重は1.26～1.28です。)
●各セルの比重も測定してください。

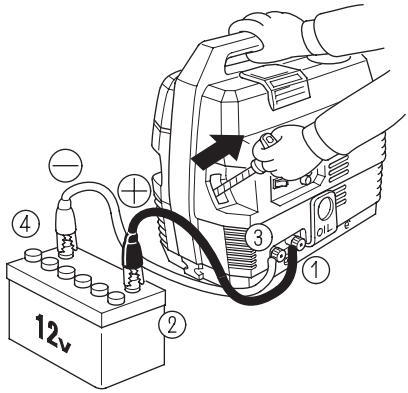
3. バッテリ液の比重を基に充電時間を求めます。
●詳細についてはバッテリの取扱説明書に従ってください。
●例：図は比重1.14の47 Ah/20 HRバッテリを約6時間充電すると満充電になることを示しています。
●バッテリの種類、放電状態によって充電時間は異なる場合があります。



バッテリ：容量
A : 30 Ah/20 HR
B : 35 Ah/20 HR
C : 47 Ah/20 HR
※30 Ah/20 HRとは(30アンペアアワー20時間率放電時)電流1.5 Aで連続20時間放電できるバッテリ容量を示します。

4. 充電コード(別売部品)の届く範囲で発電機からできるだけ離れた場所にバッテリを置き、バッテリの栓を外します。

5. 充電コード(別売部品)で直流出力端子とバッテリをつなぎ、エンジンを始動して充電します。
   コードの取付けは必ず図の番号順に行い、取外しはエンジンを停止した後、取付けの逆の順番で行います。



⚠警告

充電コードは⊕⊖の極性を間違いなく接続してください。誤って接続するとショートする場合があります。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。また発電機やバッテリの故障の原因となります。

取扱いのポイント

リセット　スイッチが“断”になっているときは、結線を確認してから“入”にします。

6. 充電が終了したら、エンジンを停止し、取付けの逆の手順で充電コードを外します。
7. バッテリに栓を取付け、バッテリを取付けます。

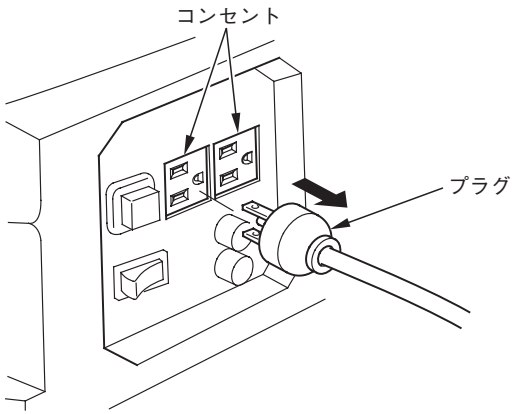
発電機のとめかた

緊急停止の場合

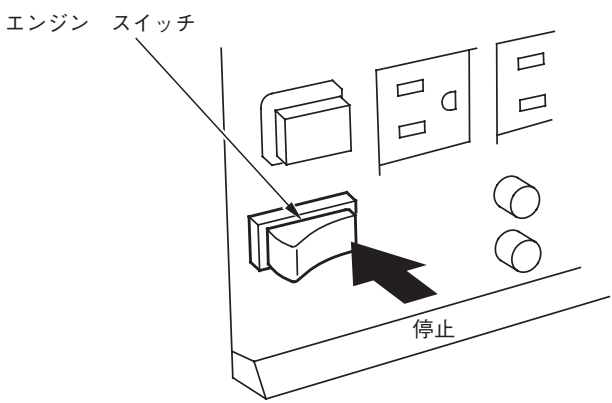
エンジン　スイッチを“停止”の位置にします。

通常の停止

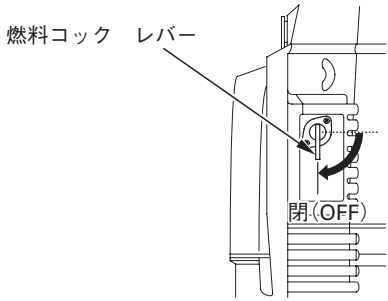
1. 使用器具のスイッチを切ります。
2. プラグをコンセントから抜きます。



3. エンジン　スイッチを“停止”の位置にします。



4. 燃料コック　レバーを“閉(OFF)”にします。



⚠警告

発電機を運搬するときや、保管および点検整備時には燃料漏れを防ぐために燃料コック　レバーを“閉(OFF)”にしてください。こぼれた燃料に引火することがあります。

定期点検を受けましょう

販売店またはサービス店で実施していただく点検整備項目について

この取扱説明書に記載されているお客様ご自身で行っていただく点検、整備項目のほかに、お買いあげ販売店またはサービス店で定期的に実施していただく項目があります。
お買いあげいただきましたHonda発電機をいつまでも安全で調子よく長持ちさせるために、定期点検を受けましょう。

販売店またはサービス店で実施する定期点検整備項目

燃焼室の清掃
（バルブの摺合わせを含む）……125時間運転後毎
吸入、排気弁すき間の点検･調整･･･１年毎または100時間運転毎
燃料タンク、燃料ろ過網の清掃････１年毎または200時間運転毎
燃料チューブの点検･･･････････････２年毎
燃料チューブの交換･･･････････････点検時に損傷があれば交換

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

⚠注意
エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラなどの温度や、油温が高くなっています。点検・整備はエンジンが冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

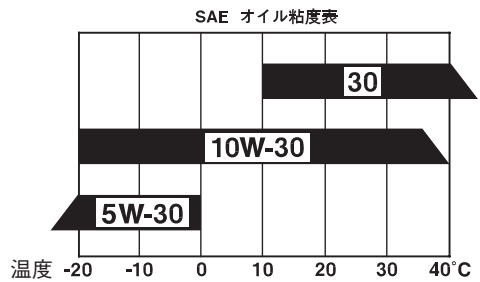
エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》
初回：20時間運転目または1か月目
以後：100時間運転毎または6か月毎

《推奨オイル》（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正　ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《規定量》 0.43ℓ

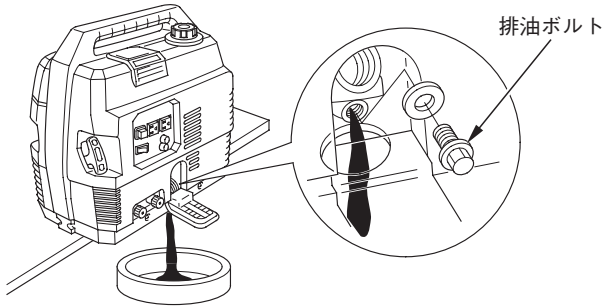


取扱いのポイント

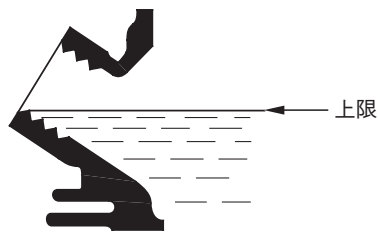
- 低温時(気温10℃以下)は、Honda純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時は、API分類SE、SF、SG級相当のSAE5W-30のオイルをご使用ください。

交換のしかた

1. オイル　メンテナンス　カバーを開きます。
2. オイル給油キャップ、排油ボルトを外し、オイルを抜きます。



3. 排油ボルトを確実に締付けて、新しいエンジン　オイルを注入口の口元まで注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



5. オイル　メンテナンス　カバーを確実に閉めます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

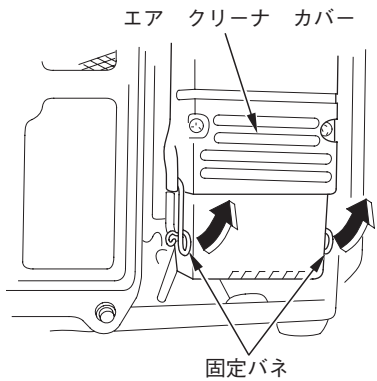
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

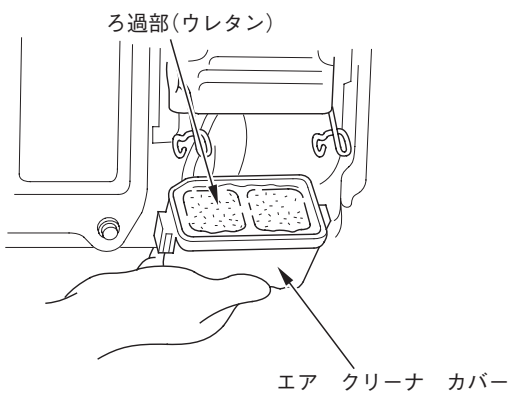
《清掃時期》　50時間運転毎または3か月毎
ほこりの多い場所で使用した場合には1日1回または10時間運転毎。

清掃のしかた

1. 固定バネを起こしエア　クリーナ　カバーを外します。



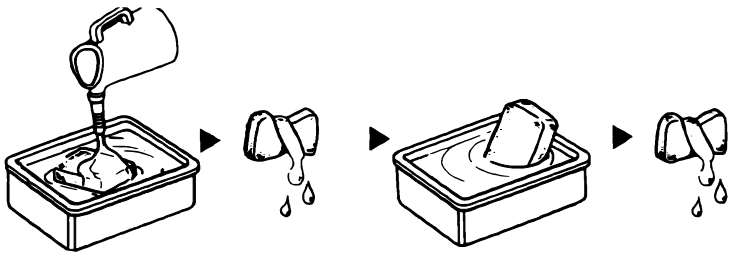
2. エア　クリーナ　カバーからろ過部(ウレタン)を取外します。



3. ろ過部(ウレタン)を洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジン　オイル(ウルトラU汎用－SAE10W-30等)に浸し、固くしぼります。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。



4. ろ過部(ウレタン)とエア　クリーナ　カバーを確実に取付け、固定バネをセットします。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン)が変形して取付けられた場合、またはカバーやろ過部が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。
ウレタンはめくれや、ずれの無いように、確実に取付けてください。

点火プラグの清掃・調整

⚠注意

エンジン停止直後のエンジン本体やマフラ、点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

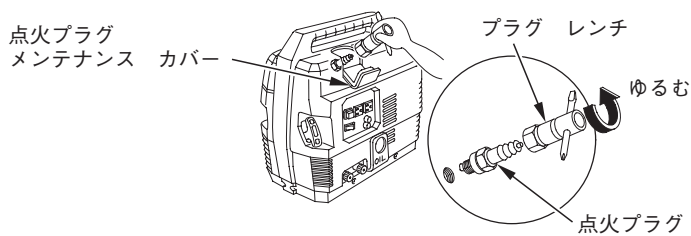
- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグ　キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。

点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなり発電機の不調の原因となります。

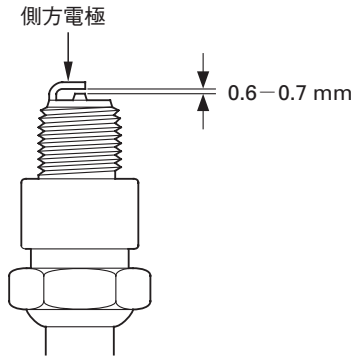
《清掃時期》　100時間運転毎または6か月毎
《指定プラグ》　BR-4HS (NGK)
　　W14FR-U (DENSO)
《交換時期》　200時間運転毎または1年毎

清掃・調整のしかた

1. 点火プラグ　メンテナンス　カバーを開きます。
2. 点火プラグ　キャップを点火プラグより外します。
3. プラグ　レンチで点火プラグを取外します。



4. 点火プラグを清掃します。
   清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落してください。
5. 側方電極を曲げ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.6－0.7 mm



6. 取付けはまず手でねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けます。
7. 点火プラグ　キャップを点火プラグに確実に取付けます。
8. 点火プラグ　メンテナンス　カバーを確実に閉めます。

常時使用しない場合には

非常用電源などの用途で常時使用しない場合は、いつでも使えるように毎月１回試運転を行ってください。燃料やオイルは長時間放置すると自然劣化してエンジンがかかりにくくなり、また故障の原因にもなります。

取扱いのポイント

燃料は自然劣化しますので３か月に１回、定期的に新しい燃料と入れ換えてください。

試運転のしかた

1.「運転する前に点検しましょう」に従って、燃料、エンジン　オイル、エア　クリーナを点検します。
2.「発電機のかけかた」に従ってエンジンを始動します。
3. 照明などの負荷をかけて10分間以上運転します。
4. エンジンの調子、オイル、燃料の漏れ、出力表示灯、エンジン　スイッチの作動を確認します。

運搬する場合には

発電機を車両等で運搬する場合には、次の事を必ず守ってください。

- エンジン　スイッチを“停止”にします。
- 燃料コック　レバーが確実に“閉(OFF)”になっていることを確認します。
- 発電機が落下、転倒、破損等しないような場所を選んで積載し、ロープ等でしっかり固定します。

⚠警告

- 燃料は燃料タンク注入口のレベル(給油限界位置)以上に入れないでください(17 頁参照)。燃料を入れ過ぎると、運搬の途中で燃料が漏れる場合があり危険です。
- 車室内やトランクに発電機を積んだまま、直射日光の当たるところや高温となる場所に長時間放置しないでください。
  車両の内部が高温になり、燃料が気化して引火しやすい状態になり危険です。
- 車のトランクに発電機を積んだまま長時間悪路を走行しないでください。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

⚠注意

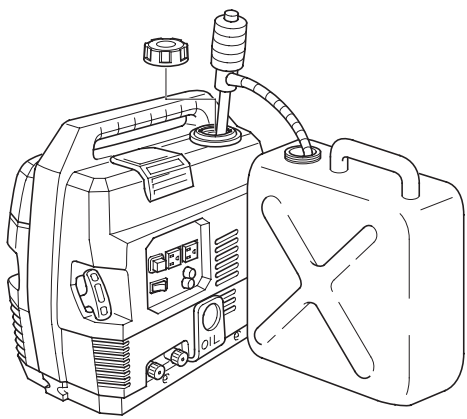
エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

1. 発電機各部の清掃を行います。

⚠警告

発電機を水洗いしないでください。
電装部品の故障やショートを起こす可能性があります。また湿気や凍結により使用時に感電するおそれがあります。

2. エア　クリーナを清掃します。(35頁参照)
3. 燃料給油キャップを外し、燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは容器に受けてください。



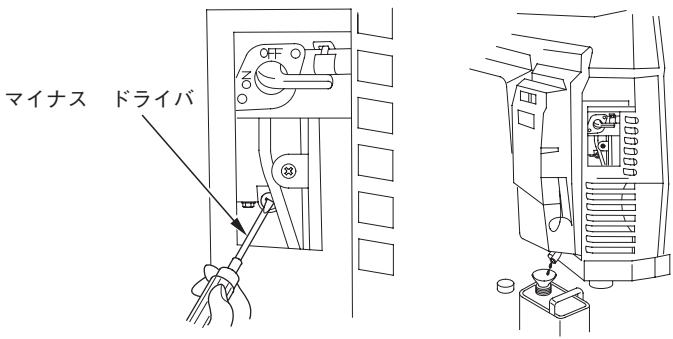
取扱いのポイント

燃料は自然に劣化します。必ず抜いてください。

⚠警告

燃料は非常に引火しやすく、また気化した燃料は爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・燃料はこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。

4. キャブレータ(気化器)、燃料ポンプ内の燃料を抜きます。
   −1. 燃料コック　レバーを“開(ON)”にして、マイナス　ドライバでキャブレータのドレン　スクリュをゆるめて燃料を容器に受けます。
   −2. 点火プラグ　メンテナンス　カバーを取外し、点火プラグ　キャップを点火プラグより取外します。
   −3. 始動グリップを 3 ～ 4 回引き、燃料ポンプ内の燃料を抜きます。
   −4. 完全に燃料が抜けたら燃料コック　レバーを“閉(OFF)”にし、ドレンスクリュを締めます。
   −5. 点火プラグ　キャップを点火プラグに確実に取付けます。
   −6. 点火プラグ　メンテナンス　カバーを確実に閉めます。



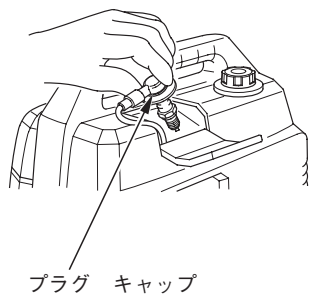
5. 始動グリップを引き、重くなったところで止めます。
6. 発電機が冷えていることを確認し、シート等をかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管します。

修理を依頼する前の簡単な点検

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常のあるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンが始動しないとき

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（22頁参照）
2. 燃料はありますか?（17頁参照）
3. エンジン　オイルは規定量ありますか?（19頁参照）
   本機はオイル　アラート機構付きです。エンジン　オイルが不足していたり発電機が傾いていると、始動グリップを引いてもエンジンはかかりません。
4. 点火プラグが汚れていたり、濡れていませんか?（37頁参照）
5. 点火プラグのすき間は正しいですか?（38頁参照）
6. 点火プラグから火花がでますか?
   −1. 点火プラグ　キャップを点火プラグより取外します。
   −2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグをプラグ　キャップに取付けます。
   −3. プラグ穴のまわりにガソリンがこぼれていないことを確認してください。万一こぼれているときは、布きれなどで完全にふき取ってください。
   −4. プラグ穴から離れた場所で、プラグのネジ部をエンジン本体にアースしておきます。感電を避けるためプラグ　キャップ以外には触れないでください。



−5. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にして始動グリップを引き、プラグの電極に火花が出るか点検します。

⚠警告

- **この点検は風通しの良い場所でプラグ穴に手や顔を近付けないで行ってください。**
- **燃料が付着していると引火するおそれがあります。布などできれいにふき取ってください。ふき取った布などは、火災と環境に注意して処分してください。**

火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店またはサービス店にご連絡ください。

電気が取出せないとき

リセット　スイッチが“断”の場合:

1. 使用器具に異常が無いか、また電気の取出し過ぎでないか確認してください。
2. 少し時間をおいてからリセット　スイッチを**“入”**にしてもう一度確かめてください。

主要諸元

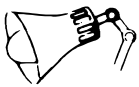
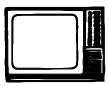
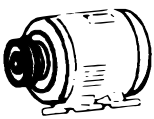
名称 / 項目	EM900F・EM900H	
タイプ	J	N
原動機の型式	GC03	
原動機の形式	強制空冷単気筒4サイクル、側弁式	
総排気量	97 cm^3	
内径×行程	52 mm × 46 mm	
使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
燃料タンク容量	2.9 ℓ	
潤滑油容量	0.43 ℓ	
始動方式	リコイル式	
発電機形式	2極回転界磁型	
機体形式	フル　カバード　タイプ	
寸法		
全長	465 mm	
全幅	290 mm	
全高	425 mm	
乾燥重量	24 kg	
出力		
定格出力（交流）	750 VA	900 VA
（直流）	100 W	
定格周波数	50 Hz	60 Hz
定格電圧（交流）	100 V	
（直流）	12 V	
定格電流（交流）	7.5 A	9 A
（直流）	8.3 A	
電圧調整方式	コンデンサ補償型	
出力端子（交流）	アース式コンセント	
（直流）	ターミナル	

この諸元は予告なく変更することがあります。

交流電源／直流電源の使用できる範囲

交流電源の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。

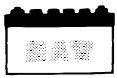
<table>
<tr><td rowspan="2">  照明
  テレビ、ラジオなど
 電熱器</td><td>交流のみ</td><td>J型：100 V－750 VAまで
N型：100 V－900 VAまで</td></tr>
<tr><td>交流・直流併用</td><td>J型：100 V－550 VAまで
N型：100 V－700 VAまで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">  モータ</td><td colspan="2">300 Wまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">モータは起動電流の多い製品、または種類によって使用できない場合があります。詳しくは、お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。</td></tr>
</table>

安定機の付いた放電タイプのランプ(水銀灯、メタルハライドランプ等)を消灯した場合は、ランプが冷えるまで待ってから再点灯してください。発電機や使用器具に不具合が発生するおそれがあります。

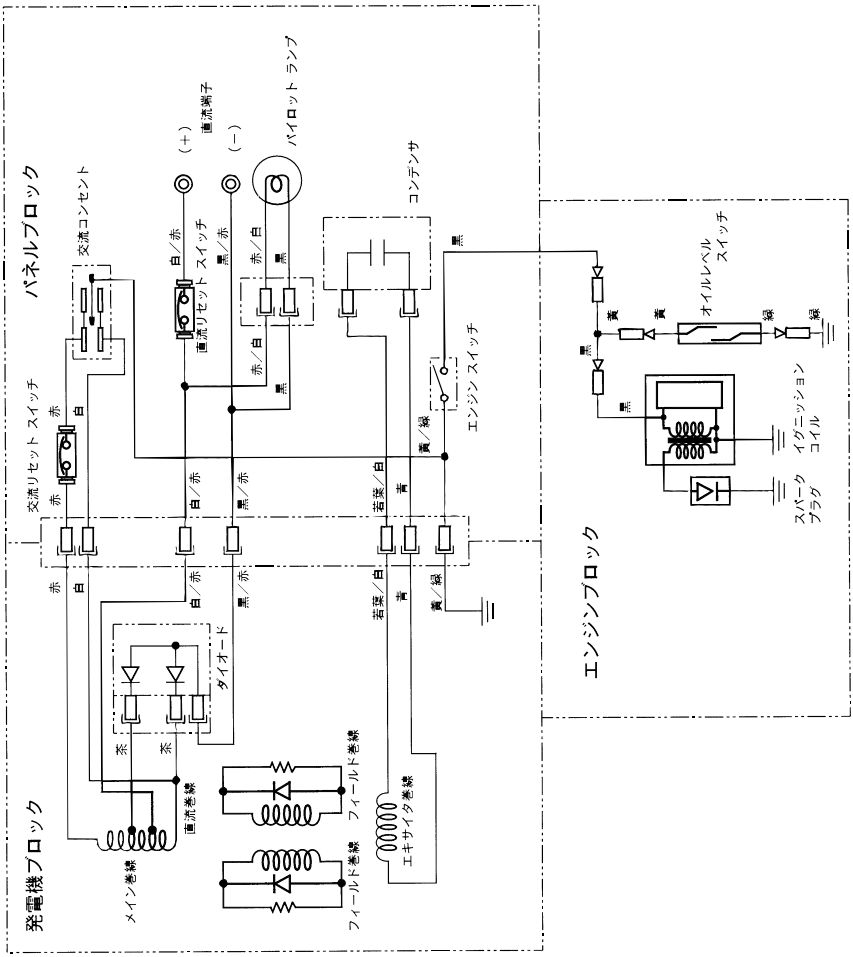
使用する負荷によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生することがあります。お買いあげ販売店またはサービス店にご相談ください。

直流電源の使用できる範囲

下記の範囲でご使用ください。

 バッテリ充電	12 V－8.3 Aまで

配線図



パネルブロック
交流コンセント
交流リセット スイッチ
赤
白
(+)
直流端子
(−)
パイロット ランプ
白／赤
黒／赤
赤／白
黒
直流リセット スイッチ
コンデンサ
エンジン スイッチ
黄／緑
若葉／白
青
黒／赤
ダイオード
茶
直流巻線
メイン巻線
フィールド巻線
エキサイタ巻線
発電機ブロック
エンジンブロック
オイルレベル スイッチ
イグニッション コイル
スパーク プラグ

メ　モ

メ　モ

メ　モ